

2013/7/18

柏の景気情報（平成25年6月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援二課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成25年6月分）

○ 調査期間 : 平成25年6月27日 ~ 7月1日

○ 調査対象 : 柏市内158事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	158	89	56.3%
建設	44	22	50.0%
製造	34	17	50.0%
卸・小売	44	34	77.3%
サービス	36	16	44.4%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成25年6月の調査結果のポイント】

《業況DIは、先行き不透明感が続く》

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.2(前月水準▲18.6)となり、マイナス幅が▲1.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△11.7(同▲27.7)で、プラス幅が△39.4ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲44.1(同▲51.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に建設業▲18.1(同△12.5)、サービス業▲6.2(同△12.5)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲30.6ポイントと大幅に拡大した。

【建設業】からは、「昨年4月5月が仕事が少ないが、今年は7月くらいまで仕事が少ない見通しです。原因としては全体の工程が遅れているので、夏以降に重なってしまう恐れがあります」(石工れんがタイルブロック工事業)、「受注はあるが利益率は下がっている」(電気工事業)、「先行きの不安はあるが救いは受託物件はどれも確保出来ているらしく、いかに採算を合わせるかが課題となっている」(その他の識別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「円安の影響もあり、業績やや好転へ」(織物業)、「6月以降、案件は増えてきた。価格競争は依然として厳しい。原料については、中国の経済状況が取引所相場に影響し不安定が続いており先が読めない状況」(特殊産業用機械)、「消費者ニーズの動きが相当激しい」(その他の機械・同部品製造業)、「個々の力が失われていく現在、個々が時代のニーズを精査して足元の改革を考える原点回帰が必要であると思う」(印刷業)、「これまでの不況と違い、景気が良くなれば業績も上がるということではなく、不況・円高などの原因により国内の生産が軒並み海外へ移管されてしまったため、大企業・親会社がどれだけ業績を伸ばしても中小・零細にはまったく関係のない話ということになっています」(その他の金属製品製造業)、「小型用建設機械の生産はやや増産されているようですが、大型の建設機械は増産計画がない」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「アベノミクス効果により繁忙期の中元商戦に期待していたものの客数・数量・1品単価どれをとっても前年並みであった」(百貨店)、「デパートでは高額品が好調と言われているが、衣料品では相変わらず低価格化が進んでいる」(婦人・子供服小売業)、「お客様も自分自身の収入はほとんど増えていない為、購買意欲にまだまだ結びついていない」(その他の各種商品小売業)、「6月二週目以降、低気温が続いたことから、夏季季節商材や節電商材需要が盛り上がり苦戦した店舗が多かったが、羽織物などの幅広い商材を取り揃えていた店舗は好調であった」(その他の各種商品小売業)、「地域経済が直面している問題点(高齢者が多く大型店が多い点で生活が違って来た)。店も高齢者が多く閉店が多く営業店が少ない」(食肉小売業)、「今後の梅雨明けの天候が青果物に大きく影響してくると思われます」(食料・飲料卸売業)、「同業他社の売り込みが盛んに動いています。安売り合戦の間に立たされ毎日泣きが入っています」(燃料小売業)、「受注減により売上げが伸びない。販売不振が続いたままだ」(一般機械器具卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「宴会は昨年並みであるが、宿泊の販売経路がWeb中心となり、競合他社の参入にもより稼働は変わらないが客室単価が大きく落ち厳しい状況が続く」(ホテル)、「夜10時すぎでも人通りが多数見られた」(食堂・レストラン)、「お客様の購入意欲はやや強いです」(不動産管理業)、「これからの「柏まつり」「花火大会」の二大イベントに柏の内需拡大を期待します」(不動産賃貸業)、「駅近物件について、住宅賃貸の環境は概ね良好だとおもいますが、郊外で築年数経過物件は厳しそうです」(不動産賃貸・管理業)、「現在の経済状況は、秀吉の作った一夜城としか零細企業はみえない」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎仕入れ価格上昇

各業種から、「昨年並みに仕事量があり見通しも良好だが、仕入れ単価が上がって採算的には変化なしと思う」(土木工事業)、「仕入れ価格は少しずつ上昇してきたが、売価は変えられず利益が減っている」(その他の各種商品小売業)、「7月より小麦製品の値上げや、秋・冬物の定番衣料の値上げ要請があり、そろそろ発注の時期の為先行きに不安」(その他の飲食料品小売業)、「建築費・不動産の仕入れ共に、値上がり傾向にあります」(不動産賃貸業)、「材料代の上昇もあるが経費の増加で悪化している。(ガソリンの値上がり・保険料の負担・提出書類の増加)」(電気工事業)、「材料価格は高騰したものの、受託単価は変わらず下降傾向だ」(その他の識別工事業)、「円安の影響により原材料の価格も上がり、工事原価と収入のバランスがよくない状況」(塗装工事業)などのコメントが寄せられた。

◎天候の影響

各業種から、「暖かくなってきたので、畳工事の注文が増えつつはあるのですが、梅雨で工事が延びたりしている関係上、売上は伸び悩み」(内装工事業)、「6月度、月初は天候に恵まれたことや、土・日に実施したキャンペーンが奏功し来店客数・売上共に前年を上回る推移となった」(その他の各種商品小売業)、「厳しい状況は依然続いています。この夏、猛暑になると益々悪化する懸念が・・・」(菓子・パン小売業)、「先月の干ばつから一変して、梅雨入りして恵みの雨となったが、気温の寒暖差が野菜の育成に影響したのもあり、単価の高値安値のバラツキがありました」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎売上の増加

各業種から、「3月発売の新商品を中心に売上増に寄与」(酒類製造業)、「月末、天候は不安定だったものの、服飾雑貨やレストラン、サービス店舗の好調から前年を上回る推移となっている」(その他の各種商品小売業)、「立て続けにセールを実施、その効果で客数、売上げ共増加、但し月後半天候不良の影響もあり微増にとどまる見通し」(その他の各種商品小売業)、「売上、利益共好調」(その他の飲食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲22.4	▲10.3	▲27.7	▲39.3	▲5.5
2月	▲22.9	▲17.2	▲27.7	▲41.1	△13.3
3月	▲17.3	±0.0	▲11.1	▲35.2	▲11.7
4月	▲24.7	▲4.3	▲5.5	▲58.3	△8.3
5月	▲18.6	△12.5	▲27.7	▲51.5	△12.5
6月	▲20.2	▲18.1	△11.7	▲44.1	▲6.2
見通し	▲8.9	△4.5	△11.7	▲29.4	▲6.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成25年6月の業況についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20. 2(前月水準▲18. 6)となり、マイナス幅が▲1. 6ポイント拡大した。

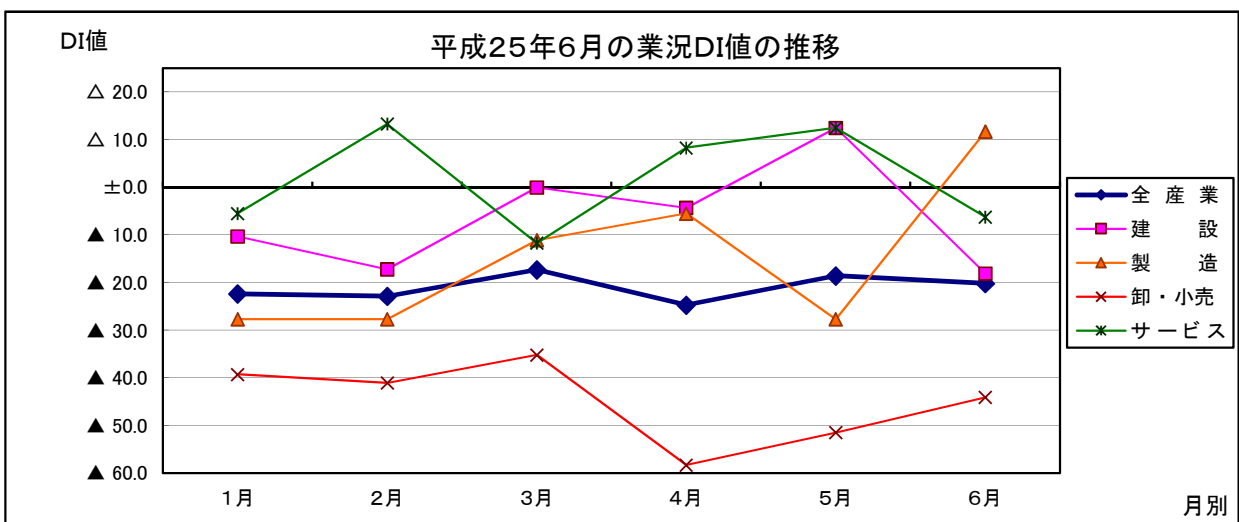
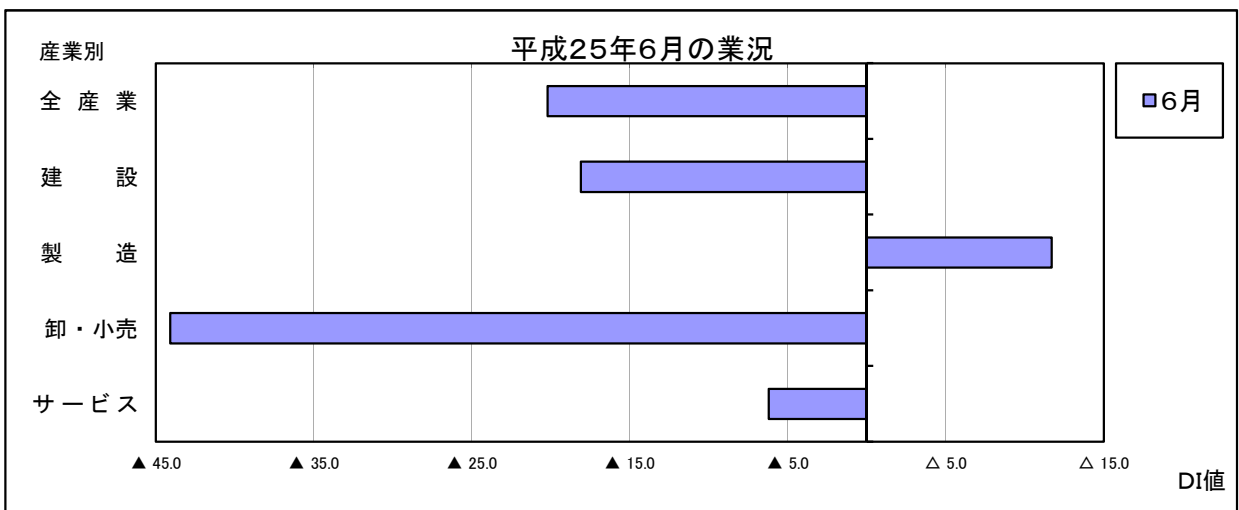
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△11. 7(同▲27. 7)で、プラス幅が△39. 4ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲44. 1(同▲51. 5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、幅の大きい順に建設業▲18. 1(同△12. 5)、サービス業▲6. 2(同△12. 5)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲30. 6ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8. 9(前月水準▲15. 3)となり、マイナス幅が△6. 4ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△11. 7(同▲16. 6)で、プラス幅が△28. 3ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業で▲29. 4(同▲45. 4)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△4. 5(同△12. 5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6. 2(同△6. 2)である。

平成25年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲22.4	▲22.9	▲17.3	▲24.7	▲18.6	▲20.2	▲8.9(▲15.3)
建設	▲10.3	▲17.2	±0.0	▲4.3	△12.5	▲18.1	△4.5(△12.5)
製造	▲27.7	▲27.7	▲11.1	▲5.5	▲27.7	△11.7	△11.7(▲16.6)
卸・小売	▲39.3	▲41.1	▲35.2	▲58.3	▲51.5	▲44.1	▲29.4(▲45.4)
サービス	▲5.5	△13.3	▲11.7	△8.3	△12.5	▲6.2	▲6.2(△6.2)



【平成25年6月の売上についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.4(前月水準▲12.0)となり、マイナス幅が▲1.4ポイント拡大した。

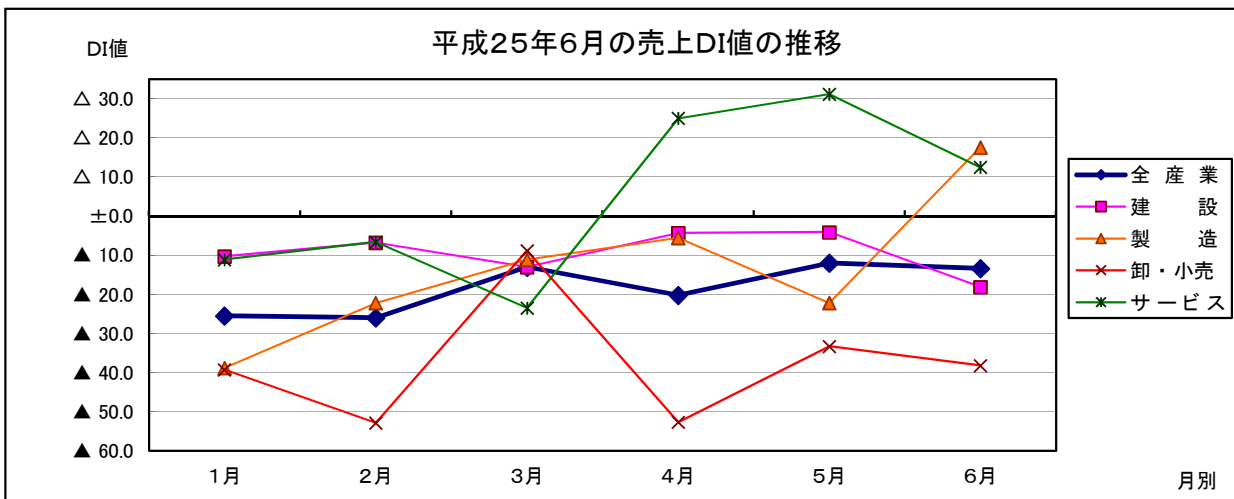
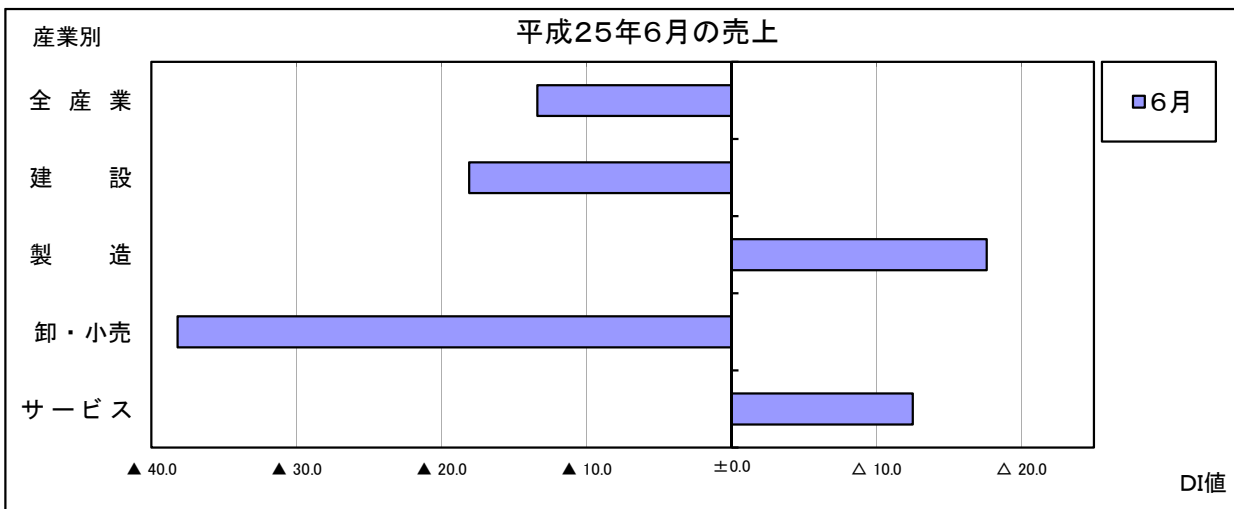
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△17.6(同▲22.2)であり、プラス幅が△39.8ポイントと大幅に改善した。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△12.5(同△31.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲18.1(同▲4.1)、卸小売業▲38.2(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△7.8(前月水準▲2.1)となり、プラス幅が△9.9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△35.2(同±0)、建設業△36.3(同△16.6)であり、特に、製造業はプラス幅が△35.2ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲20.5(同▲21.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0(同△6.2)である。

平成25年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲25.5	▲26.0	▲13.0	▲20.2	▲12.0	▲13.4	△7.8(▲2.1)
建設	▲10.3	▲6.8	▲13.0	▲4.3	▲4.1	▲18.1	△36.3(△16.6)
製造	▲38.8	▲22.2	▲11.1	▲5.5	▲22.2	△17.6	△35.2(±0.0)
卸・小売	▲39.3	▲52.9	▲8.8	▲52.7	▲33.3	▲38.2	▲20.5(▲21.2)
サービス	▲11.1	▲6.6	▲23.5	△25.0	△31.2	△12.5	±0.0(△6.2)



【平成25年6月の採算についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20. 2(前月水準▲21. 9)となり、マイナス幅が△1. 7ポイント縮小した。

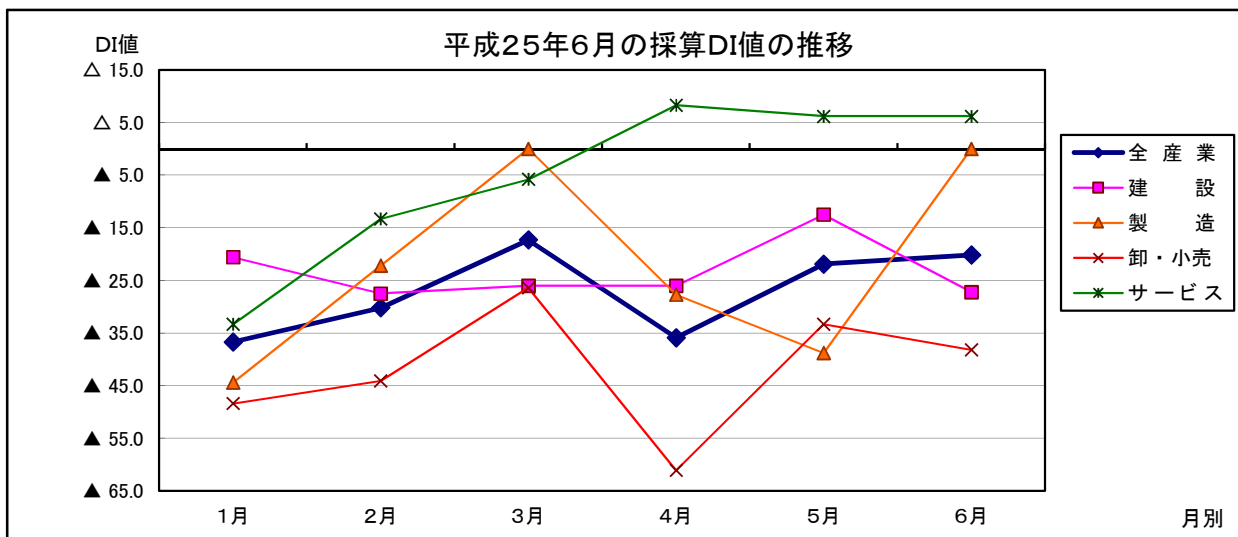
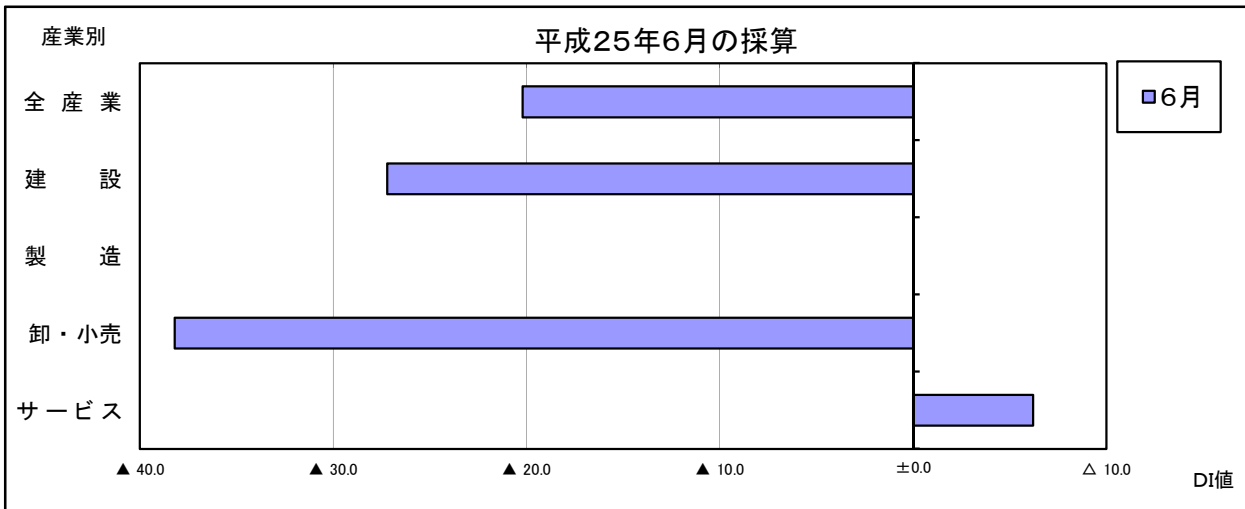
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0(同▲38. 8)であり、マイナス幅が△38. 8ポイントと大幅に縮小した。変らない業種は、サービス業△6. 2(同△6. 2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲27. 2(同▲12. 5)、卸小売業▲38. 2(同▲33. 3)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10. 1(前月水準▲17. 5)となり、マイナス幅が△7. 4ポイント改善する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に製造業△17. 6(同▲11. 1)、建設業△4. 5(同▲4. 1)であり、特に、製造業はプラス幅が△28. 7ポイントと大幅に拡大する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲6. 2(同▲12. 5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲35. 2(同▲33. 3)である。

平成25年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲ 36.7	▲ 30.2	▲ 17.3	▲ 35.9	▲ 21.9	▲ 20.2	▲ 10.1 (▲ 17.5)
建設	▲ 20.6	▲ 27.5	▲ 26.0	▲ 26.0	▲ 12.5	▲ 27.2	△ 4.5 (▲ 4.1)
製造	▲ 44.4	▲ 22.2	±0.0	▲ 27.7	▲ 38.8	±0.0	△ 17.6 (▲ 11.1)
卸・小売	▲ 48.4	▲ 44.1	▲ 26.4	▲ 61.1	▲ 33.3	▲ 38.2	▲ 35.2 (▲ 33.3)
サービス	▲ 33.3	▲ 13.3	▲ 5.8	△ 8.3	△ 6.2	△ 6.2	▲ 6.2 (▲ 12.5)



【平成25年6月の仕入単価についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲39.3(前月水準▲34.0)となり、マイナス幅が▲5.3ポイント拡大した。

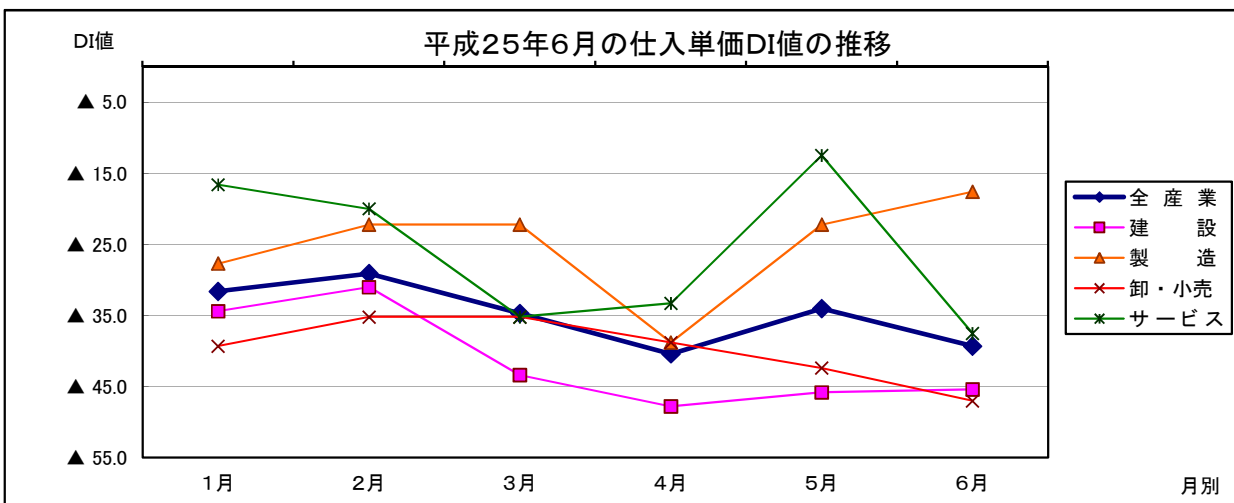
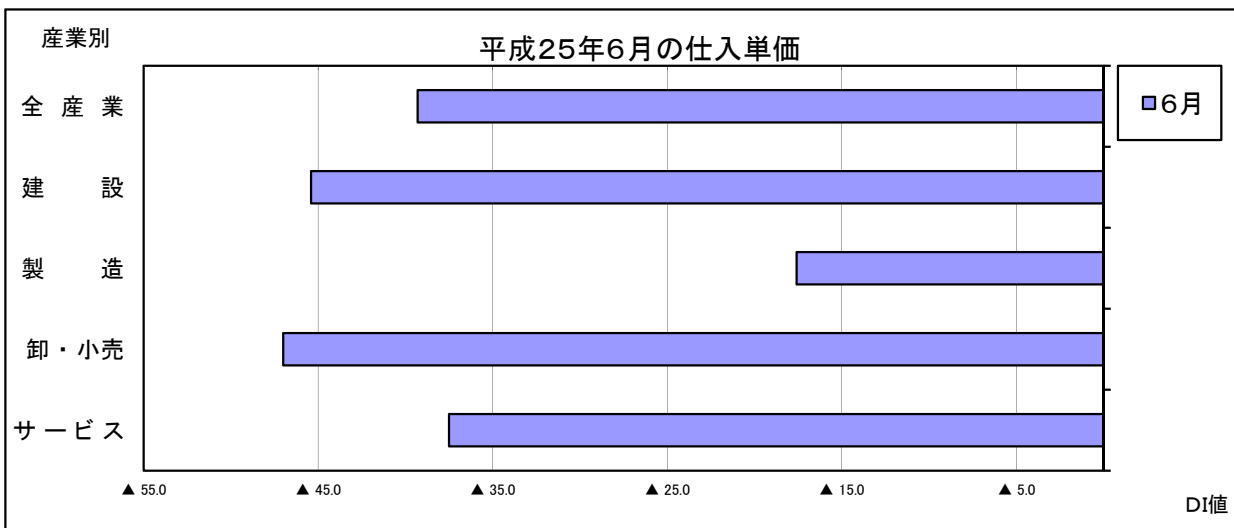
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.6(同▲22.2)、建設業▲45.4(同▲45.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲37.5(同▲12.5)、卸小売業▲47.0(同▲42.4)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲25.0ポイントと大幅に拡大した。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲33.7(前月水準▲30.7)となり、マイナス幅が▲3.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲5.8(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲37.5(同▲25.0)、建設業▲36.3(同▲33.3)、卸小売業▲44.1(同▲42.4)である。

平成25年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲31.6	▲29.1	▲34.7	▲40.4	▲34.0	▲39.3	▲33.7(▲30.7)
建設	▲34.4	▲31.0	▲43.4	▲47.8	▲45.8	▲45.4	▲36.3(▲33.3)
製造	▲27.7	▲22.2	▲22.2	▲38.8	▲22.2	▲17.6	▲5.8(▲11.1)
卸・小売	▲39.3	▲35.2	▲35.2	▲38.8	▲42.4	▲47.0	▲44.1(▲42.4)
サービス	▲16.6	▲20.0	▲35.2	▲33.3	▲12.5	▲37.5	▲37.5(▲25.0)



【平成25年6月の従業員についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△1.1(前月水準▲5.4)となり、マイナス幅が△6.5ポイント縮小した。

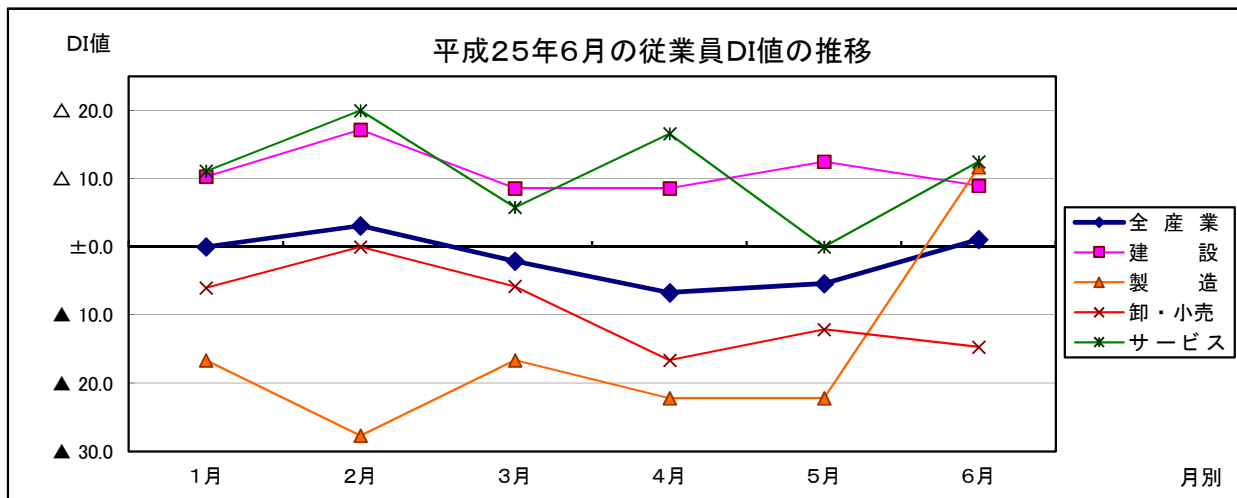
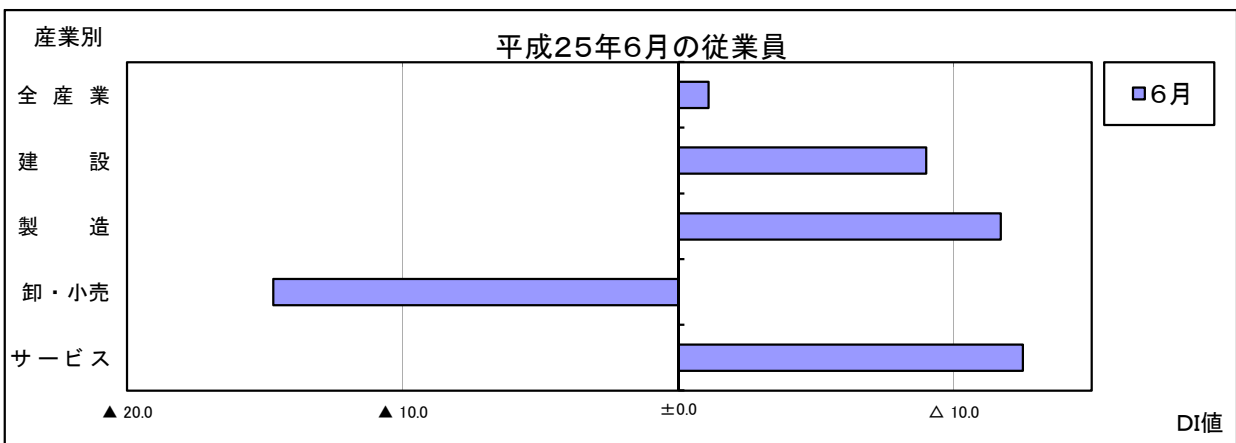
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△12.5(同±0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△11.7(同▲22.2)であり、マイナス幅が△33.9ポイントと大幅に縮小した。プラス幅が縮小した業種は、建設業△9.0(同△12.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲14.7(同▲12.1)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△6.7(前月水準▲3.2)となり、マイナス幅が△9.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△18.7(同±0)、建設業△18.1(同△12.5)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△11.7(同▲16.6)であり、マイナス幅が△28.3ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲8.8(同▲9.0)である。

平成25年6月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	±0.0	△3.1	▲2.1	▲6.7	▲5.4	△1.1	△6.7(▲3.2)
建設	△10.3	△17.2	△8.6	△8.6	△12.5	△9.0	△18.1(△12.5)
製造	▲16.6	▲27.7	▲16.6	▲22.2	▲22.2	△11.7	△11.7(▲16.6)
卸・小売	▲6.0	±0.0	▲5.8	▲16.6	▲12.1	▲14.7	▲8.8(▲9.0)
サービス	△11.1	△20.0	△5.8	△16.6	±0.0	△12.5	△18.7(±0.0)



【平成25年6月の資金繰りについての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.6(前月水準▲6.5)となり、マイナス幅が▲8.1ポイント拡大した。

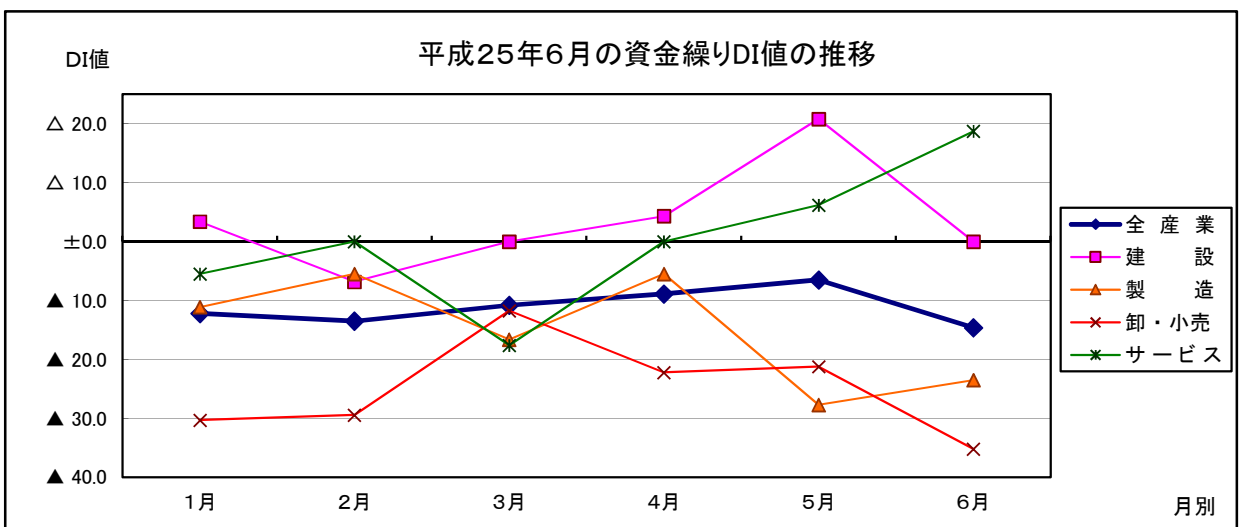
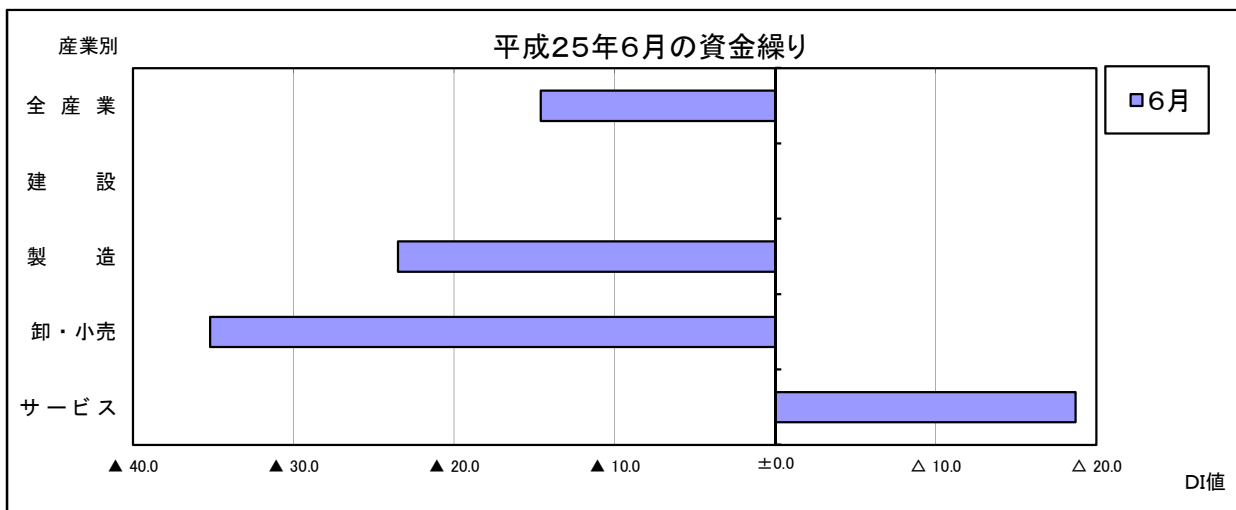
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業△18.7(同△6.2)である。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲23.5(同▲27.7)である。プラス幅が縮小した業種は、建設業±0(同△20.8)であり、プラス幅が▲20.8ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲35.2(同▲21.2)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.1(前月水準▲10.9)となり、マイナス幅が△9.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△12.5(同△6.2)、建設業△13.6(同△12.5)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△5.8(同▲27.7)であり、マイナス幅が△33.5ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲20.5(同▲27.2)である。

平成25年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成25年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲12.2	▲13.5	▲10.8	▲8.9	▲6.5	▲14.6	▲1.1(▲10.9)
建設	△3.4	▲6.8	±0.0	△4.3	△20.8	±0.0	△13.6(△12.5)
製造	▲11.1	▲5.5	▲16.6	▲5.5	▲27.7	▲23.5	△5.8(▲27.7)
卸・小売	▲30.3	▲29.4	▲11.7	▲22.2	▲21.2	▲35.2	▲20.5(▲27.2)
サービス	▲5.5	±0.0	▲17.6	±0.0	△6.2	△18.7	△12.5(△6.2)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 13.4	△ 7.8	▲ 20.2	▲ 10.1	▲ 39.3	▲ 33.7	△ 1.1	△ 6.7
建設	▲ 18.1	△ 36.3	▲ 27.2	△ 4.5	▲ 45.4	▲ 36.3	△ 9.0	△ 18.1
製造	△ 17.6	△ 35.2	±0.0	△ 17.6	▲ 17.6	▲ 5.8	△ 11.7	△ 11.7
卸・小売	▲ 38.2	▲ 20.5	▲ 38.2	▲ 35.2	▲ 47.0	▲ 44.1	▲ 14.7	▲ 8.8
サービス	△ 12.5	±0.0	△ 6.2	▲ 6.2	▲ 37.5	▲ 37.5	△ 12.5	△ 18.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 20.2	▲ 8.9	▲ 14.6	▲ 1.1
建設	▲ 18.1	△ 4.5	±0.0	△ 13.6
製造	△ 11.7	△ 11.7	▲ 23.5	△ 5.8
卸・小売	▲ 44.1	▲ 29.4	▲ 35.2	▲ 20.5
サービス	▲ 6.2	▲ 6.2	△ 18.7	△ 12.5

【平成25年6月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設業	昨年は、4月5月が仕事が少ないが、今年は7月くらいまで仕事が少ない見通しです。原因としては全体の工程が遅れている為で、夏以降に重なってしまう恐れがあります。	仕事量減少 工事の遅れ	石工れんがタイルブロック工事業
	受注はあるが利益率は下がっている。材料代の上昇もあるが経費の増加で悪化している(ガソリンの値上がり・保険料の負担・提出書類の増加)	利益率の減少 原材料値上げ 経費増加	電気工事業
	やっと現場が動き出したような感じだ。先の物件は確保出来ているものの4・5・6月の動きがなく、景況改善の様子もなく、過去にない業況だった。材料価格は高騰したものの、受託単価は相変わらず下降傾向だ。先行きの不安はあるが救いは受託物件はどれも確保出来ているらしく、いかに採算を合わせるかが課題となっている。	原材料値上げ 受託単価下落 先行き不安	その他の職別工事業
	円安の影響により原材料の価格も上がり、工事原価と収入のバランスがよくない状況	円安の影響 原材料値上げ	塗装工事業
	昨年並みに仕事量があり見通しも良好だが、仕入単価が上がっていて採算的には変化なしと思う。	見通し良好 仕入れ単価上昇	土木工事業
	暖かくなってきたので、畳工事の注文が増えつつはあるのですが、梅雨で工事が延びたりしている関係上、売上は伸び悩み。来月に期待したい。	受注増加 梅雨 工事の遅れ 売上げ停滞	内装工事業
製造業	円安の影響あり、業績やや好転へ	円安の影響 業績好転	織物業
	6月以降、案件は増えてきた。価格競争は依然として厳しい。原料については、中国の経済状況が取引所相場に影響し不安定が続いており先が読めない状況。	価格競争 中国経済	特殊産業用機械
	機械導入：最近の傾向としては事前情報がほとんど無く、“突然”という感がある。一方、当初は短納期で指定されたが、諸般の事情で遅らせるよう、顧客都合で変わることもある。消費者ニーズの動きが相当激しいためと想像します。	納期の変動 消費者ニーズ	その他の機械・同部品製造業
	3月発売の新商品ウイスキーを中心にウイスキーが堅調で売上増に寄与	新商品 売上げ増	酒類製造業
	借金も財産の内と考えられた時代もあったけれど、現況では借金で新規事業を展開することは危険であると思う。個々の力が失われていく現在、個々が時代のニーズを精査して足元の改革を考える原点回帰が必要であると思う。	時代のニーズ 原点回帰	印刷業
	製造業、特に末端部品を製造している企業にとっては現在の世間の状況はまったく関係がないように思えます。これまでの不況と違い、景気が良くなれば業績も上がるということではなく、不況・円高などの原因により国内の生産が軒並み海外へ移管されてしまったため、大企業・親会社がどれだけ業績を伸ばしても中小・零細にはまったく関係のない話ということになっています。日本に仕事がないのですから受注産業として縮小の道以外の選択肢はないと考えます。海外へ拠点を移して生産をしたところで、日本のワーカーレベルの人材が余るだけでなんの解決にもなりません。定年の延長により企業には人が余り、若者支援として採用を促進しようとし、それでもグローバル化を進めることなど矛盾だらけです。管理職だけでよければ日本の工場で働く製造業の従業員はみんな仕事を失います。この方向で良いのでしょうか？	海外移管 産業の縮小	その他の金属製品製造業
	小型用建設機械の生産はやや増産されているようですが、大型の建設機械は増産計画がない。	小型機械の生産微増	一般産業用機械・装置製造業
	アベノミクス効果により繁忙期中元商戦に期待していたものの客数・数量・1品単価どれをとっても前年並みであった。百貨店に関しては、兆候こそあるものの(ex. 高級輸入時計の売上伸長など)食品はじめ衣料品や雑貨に関してはまだ実感が湧いてこない。	アベノミクス 中元商戦 前年並み	百貨店
デパートでは高額品が好調と言われているが、衣料品では相変わらず低価格化が進んでいる。高額衣類は例年バーゲン待ちで急に売れ出すが、当店に於いても6月中旬にミニバーゲンを実施した所一気に勢い付いた。	衣料品低価格化 バーゲン	婦人・子供服小売業	

【平成25年6月の業種別業界内トピックス】

卸小売業	仕入価格は少しずつ上昇してきたが、売価は変えられず利益が減っている。お客様も自分自身の収入はほとんど増えていない為、購買意欲にまだまだ結びついていない。	仕入れ価格上昇 価格転嫁 購買意欲 利益の減少	その他の各種商品小売業
	6月度、月初は天候に恵まれたことや、1日・2日の2日間で実施したキャンペーンが奏功し入店客数・売上共に前年を上回る推移となった。二週目以降、低気温が続いたことから、夏季季節商材や節電商材需要が盛り上がり苦戦した店舗が多かったが、羽織物などの幅広い商材を取り揃えていた店舗は好調であった。月末、天候は不安定だったものの、服飾雑貨やレストラン、サービス店舗の好調から前年を上回る推移となっている。	天候の影響 キャンペーン 売上げ増	その他の各種商品小売業
	7月からの諸々の値上げの影響が心配です。	値上げの影響	その他の各種商品小売業
	厳しい状況は依然続いています。この夏、猛暑になると益々悪化する懸念が...	厳しい業況 猛暑の影響	菓子・パン小売業
	地域経済が直面している問題点(高齢者が多く大型店が多い点で生活が違って来た。)店も高齢者が多く閉店が多く営業店が少ない。	地域経済 高齢化 大型店 個店の減少	食肉小売業
	おにぎり100円セール、麺類50円引きセール、調理パン30円引きセール等、立て続けにセールを実施、その効果で客数、売上げ共増加、但し月後半天候不良の影響もあり微増にとどまる見通し。	セールの実施 売上げ増加 天候の影響	その他の各種商品小売業
	先月の干ばつから一変して、梅雨入りして恵みの雨となったが、気温の寒暖差が野菜の生育に影響したものもあり、単価の高値安値のバラツキがありました。総体して入荷減の動き、果実は入荷増、単価にバラツキあり前年並みの取引となっています。今後の梅雨明けの天候が青果物に大きく影響してくると思われしますので、産地情報を迅速に取り常に需要と供給のバランスが取れるよう努力してまいります。併せて、青果物の安全・安心には細心の注意を払うべき対応をしてまいります。	天候の影響 野菜の育成 単価のバラツキ 需要と供給 安全・安心	食料・飲料卸売業
同業他社の売り込みが盛んに動いています。安売り合戦の間に立たされ毎日泣きが入っています。でも社員一同小規模でもがんばっています。	同業他社 安売り	燃料小売業	
受注減により売上げが伸びない。販売不振が続いたままだ。	受注減 販売不振	一般機械器具卸売業	
サービス業	宴会は昨年並みであるが、宿泊の販売経路がWeb中心となり、競合他社の参入にもより稼働は変わらないが客室単価が大きく落ち厳しい状況が続く。	宴会昨年並み Web販売 客単価下落	ホテル
	売上、利益共好調、7月より小麦製品の値上げや、秋・冬物の定番衣料の値上げ要請があり、そろそろ発注の時期の為先行きに不安。スーパーの惣菜・弁当・すし弁当等の充実の関係か、家族(特に奥様)連れの来客減少(売上減少)、アベノミクスの恩恵がない!	売上・利益好調 仕入れ価格上昇 先行き不安 アベノミクス	その他の飲食料点小売業
	夜10時すぎでも人通りが多数見られた。	夜間の人通り	食堂・レストラン
	建築費・不動産の仕入れ共に、値上がり傾向にあります。売値には転化できない状況で利益率は低くなっています。お客様の購入意欲はやや強いです。	仕入れ価格上昇 価格転嫁 利益率の低下 購買意欲	不動産管理業
	これからの「柏まつり」「花火大会」の二大イベントに柏の内需拡大を期待します。	柏まつり 花火大会 内需拡大	不動産賃貸業
	駅近物件について、住宅賃貸の環境は概ね良好だともいますが、郊外で築年数経過物件は厳しそうです。	駅近物件良好 郊外物件苦戦	不動産賃貸・管理業
現在の経済状況は、秀吉の作った一夜城としか零細企業はみえない。参院選後には、腐って水没します。補強したからと言って基本が軟弱では近いうち倒れるでしょう。大手企業が根こそぎ柏の街をローラ掛け、吸い取ってる状況。厳しいです。	一過性の経済 厳しい業況	ソフトウェア業	

◎仕入れ価格上昇

- ・ 昨年並みに仕事量があり見通しも良好だが、仕入れ単価が上がっていて採算的には変化なしと思う。 土木工事業
- ・ 仕入れ価格は少しずつ上昇してきたが、売価は変えられず利益が減っている。 その他の各種商品小売業
- ・ 7月より小麦製品の値上げや、秋・冬物の定番衣料の値上げ要請があり、そろそろ発注の時期の為先行きに不安。 その他の飲食料品小売業
- ・ 建築費・不動産の仕入れ共に、値上がり傾向にあります。 不動産賃貸業
- ・ 材料代の上昇もあるが経費の増加で悪化している。(ガソリンの値上がり・保険料の負担・提出書類の増加) 電気工事業
- ・ 材料価格は高騰したものの、受託単価は変わらず下降傾向だ。 その他の識別工事業
- ・ 円安の影響により原材料の価格も上がり、工事原価と収入のバランスがよくない状況。 塗装工事業

◎天候の影響

- ・ 暖かくなってきたので、畳工事の注文が増えつつはあるのですが、梅雨で工事が延びたりしている関係上、売上は伸び悩み。 内装工事業
- ・ 6月度、月初は天候に恵まれたことや、土・日に実施したキャンペーンが奏功し入店客数・売上共に前年を上回る推移となった。 その他の各種商品小売業
- ・ 厳しい状況は依然続いています。この夏、猛暑になると益々悪化する懸念が……。 菓子・パン小売業
- ・ 先月の干ばつから一変して、梅雨入りして恵みの雨となったが、気温の寒暖差が野菜の育成に影響したものもあり、単価の高値安値のバラツキがありました。 食料・飲料卸売業

◎売上の増加





- ・ 3月発売の新商品を中心に売上増に寄与 酒類製造業
- ・ 月末、天候は不安定だったものの、服飾雑貨やレストラン、サービス店舗の好調から前年を上回る推移となっている。 その他の各種商品小売業
- ・ 立て続けにセールを実施、その効果で客数、売上げ共増加、但し月後半天候不良の影響もあり微増にとどまる見通し。 その他の各種商品小売業
- ・ 売上、利益共好調。 その他の飲食料品小売業











平成25年6月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.2に対し、「CCI-LOBO」が▲17.3で柏の方がマイナス幅が2.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.4に対し、「CCI-LOBO」が▲11.7で、柏の方がマイナス幅が1.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業でいずれ10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、卸小売業でいずれも10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.2に対し、「CCI-LOBO」が▲20.6で、柏のほうがマイナス幅が0.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業、製造業で、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業でいずれも10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲39.3に対し、「CCI-LOBO」が▲40.4で、柏の方がマイナス幅が1.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、建設業でいずれも10ポイント以上大きい。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△1.1に対し、「CCI-LOBO」が△4.3で、柏の方がプラス幅が3.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、建設業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.6に対し、「CCI-LOBO」が▲12.6で、柏の方がマイナス幅が2.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業、建設業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、製造業で、いずれも10ポイント以上悪い。











平成25年6月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 20.2	 ▲ 18.1	 △ 11.7	 ▲ 44.1	 ▲ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 17.3	 0.8	 ▲ 19.6	 ▲ 26.4	 ▲ 13.5

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 13.4	 ▲ 18.1	 △ 17.6	 ▲ 38.2	 △ 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 11.7	 5.7	 ▲ 16.9	 ▲ 21.4	 ▲ 6.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 20.2	 ▲ 27.2	 ±0.0	 ▲ 38.2	 △ 6.2
CCI-LOBO	 ▲ 20.6	 ▲ 13.3	 ▲ 21.9	 ▲ 25.1	 ▲ 17.7

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 39.3	 ▲ 45.4	 ▲ 17.6	 ▲ 47.0	 ▲ 37.5
CCI-LOBO	 ▲ 40.4	 ▲ 58.2	 ▲ 46.2	 ▲ 30.4	 ▲ 33.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 1.1	 △ 9.0	 △ 11.7	 ▲ 14.7	 △ 12.5
CCI-LOBO	 △ 4.3	 △ 12.9	 ▲ 6.0	 △ 6.7	 △ 9.8

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 14.6	 ±0.0	 ▲ 23.5	 ▲ 35.2	 △ 18.7
CCI-LOBO	 ▲ 12.6	 ▲ 8.3	 ▲ 13.3	 ▲ 18.9	 ▲ 8.0

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (6月速報)

調査期間：平成25年6月14日～20日

調査対象：全国の417商工会議所が3118業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、回復基調が続くも、足元では横ばいで推移

6月の全産業合計の業況DIは、▲17.3と、前月から▲0.2ポイントの横ばいで推移。中小企業の景況感、好調な建設業や回復傾向にある自動車をはじめとする輸出関連企業に下支えされ、底堅い動きとなっている。他方で、燃料（原油、ガス）や原材料の価格上昇・高止まりに加え、人件費、電力料金などのコストが増す中、価格転嫁が進まないとの指摘もあり、中小企業の中には、依然として景気回復の実感が乏しい状況も伺える。

先行きについては、先行き見通しDIが▲13.7（今月比+3.6ポイント）と、改善する見込み。消費税引き上げを見据え住宅の駆け込み需要が本格化する建設業や、自動車を中心に業績改善が進む製造業が下支えし、持ち直しの動きは続く見込み。他方、燃料・原材料の価格動向や電力料金の値上げなど懸念材料は多く、一部では、景気回復の実感に乏しく、先行きを不安視する声も聞かれる。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、サービス業でほぼ横ばい、卸売業で悪化、その他の2業種で改善した。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事は増加しているが、人件費の高騰により経営が圧迫されている」（一般工事業）、「耐震工事業やリフォーム、太陽光関連などの受注が好調」（建築工事業）、「通信関連会社の設備投資増加に伴い、問い合わせが増えてきているものの、技術職が不足しており、対応できない」（電気通信工事業）

【製造業】「電力料金やガス代の負担が増加。また、取引先からのコストダウン要請もあり、厳しい」（金属熱処理業）、「被災地向けの海洋土木関連機械を中心に、受注が伸びている」（一般機械製造業）、「受注が回復傾向にあり、採算・資金繰りが好転。先行きも好調が続く見込み」（自動車部品製造業）

【卸売業】「自動車関連が上向いているものの、仕入コスト

の増大に伴い、利益が出ない」（機械工具卸売業）、「公共工事の増加に伴い、建設業向けの引き合いが増加」（計量器卸売業）、「仕入価格が上昇しているものの、上昇分の3割程度しか転嫁が進んでいない」（鋼材卸売業）

【小売業】「好天が続ぎ、気温も上昇したこと夏物衣料が好調。高額品も堅調に推移しており、客単価は上昇傾向」（百貨店）、「婦人服を中心に、価格の高い商品の売れ行きが伸びている」（衣料品販売）、「輸入商品の価格が上昇しており、採算が悪化。賃金上昇の動きも乏しく、経営環境は厳しい」（商店街）

【サービス業】「消費税引き上げを見据え、早めに土地を購入しようとする客が増加している」（不動産業）、「光熱費や食料品などの仕入価格の上昇分を転嫁したいが、客離れが見込まれるため、踏み切れない」（飲食店）、「国内観光客が堅調で、売上は増加。他方で、客単価が伸び悩んでいる」（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲29.6	▲15.7	▲33.3	▲30.0	▲39.8	▲24.9
2月	▲26.4	▲9.9	▲31.0	▲26.7	▲37.8	▲21.8
3月	▲19.7	▲6.4	▲27.4	▲15.7	▲25.4	▲17.2
4月	▲15.2	2.0	▲24.4	▲15.7	▲25.9	▲7.3
5月	▲17.1	1.6	▲20.7	▲20.4	▲29.1	▲12.8
6月	▲17.3	0.8	▲19.6	▲29.3	▲26.4	▲13.5
見通し	▲13.7	4.6	▲13.4	▲19.4	▲26.2	▲12.7

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI